

平素は青臨技の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

令和3年度および令和5年度にご提出いただいた研修会報告書について、会報への掲載漏れが判明いたしました。つきましては、今回の会報に掲載させていただきました。掲載が令和7年度となってしましましたことを深くお詫び申し上げます。

青森県臨床検査技師会 事務局

目 次

瑞宝双光章を受章して.....	坂牛 省二- 1 -
特別功労賞を受賞して.....	八戸市立市民病院 奥沢 悅子- 2 -
特別功労賞を受賞して.....	弘前大学医学部附属病院 石山 雅大- 3 -
功労賞を受賞して	弘前大学医学部附属病院 櫛引 美穂子- 3 -
功労賞を受賞して	弘前大学医学部附属病院 三上 昭夫- 4 -
奨励賞を受賞して	八戸赤十字病院 逆井 久美子- 4 -
奨励賞を受賞して	弘前大学医学部附属病院 武田 美香- 5 -
第51回青森県医学検査学会を終えて	八戸赤十字病院 野中 健一- 5 -
令和3年度青臨技臨床血液部門研修会報告...	八戸市医師会臨床検査センター 尾崎 由佳- 6 -
令和5年度青臨技臨床血液部門研修会報告...	八戸市医師会臨床検査センター 尾崎 由佳- 6 -
令和7年度青臨技輸血細胞治療部門研修会報告.....	弘前総合医療センター 松下 紗 - 7 -
令和7年度第1回理事会議事録.....	- 8 -
令和7年度第2回理事会議事録.....	-11 -
令和7年度第3回理事会議事録.....	-13 -

【令和6年度受賞者より】

瑞宝双光章を受章して

坂牛 省二

令和6年春の叙勲に際し、はからずも瑞宝双光章の栄に浴することができました。令和6年5月10日厚労省の伝達式典後、皇居にて夫婦共々天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜り感激いたしました。この受章は、青森県臨床検査技師会のご推薦と多年にわたる関係各位のご協力、ご支援があったことに深く心より感謝いたします。

これまで、東北大学医学部付属病院検査部と平内町国民健康保険平内中央病院検査室に勤務しましたが、昭和60年に平内中央病院に勤務してからは、どの分野でも出来る必要があり、一般検査はもとより輸血検査、微生物検査や生化学検査分野などを担当してきました。平成4年より青森県臨床衛生検査技師会一般検査研究班班長を務め、平成5年には東北地区一般検査研修会では弘前大学医学部実習室をお借りして、初めての大人数での鏡検実習を実施しました。この頃より、石山雅大技師には研修会や実習に多大な協力をしていただきました。その後、東北各県で一般検査研修会における医学部実習室を使用した100人規模

の鏡検実習が行われるようになっていきました。平成9年から日本臨床検査技師会一般検査研究班全国委員となり、平成10年には東北大学医学部において油野友二班長のもと全国尿沈渣研修会の実務・実習を担当し、いろいろな困難がありながらも尿沈渣鏡検実習標本を作製し、研修会を実施することが出来ました。八木靖二先生から、後に自分の活動信条となる「研修、実習は担当者の自己満足であってはなりません。受講生のために何ができるか考えなさい。」と熱い指導をいただいたと記憶しています。平成12年には弘前大学医学部で東北地区一般検査研修会を再び担当し、実習は受講生1人に顕微鏡1台というスタイルが出来上りました。平成13年には弘前大学医学部施設で3日間に及ぶ全国一般検査研修会を、石山雅大技師をはじめ東北各県の研究班班長の皆様に大変なご協力のもと開催実施できました。このことは、一般検査に関して東北から、青森から、全国に情報発信できることを教えてくれました。平成12年には編集委員として共同執筆した「尿沈渣検査法 2000」が日臨技から発刊され尿沈渣検査の標準化が大きく進展しました。さらに「尿沈渣検査法 2010」の発刊にも参加し、多くの沈査写真を掲載していただきました。青森県や東北地区技師会を中心に全国で120回に及ぶ講演や、多くの学会発表をすることができ、尿沈渣検査法の普及啓蒙や尿沈渣の精度管理（フォトサーベイ）の質の向上について貢献できたのではないかと思っています。この受章により、一般検査の評価向上や活性化、後進の励みにも繋がるものと嬉しく思っています。

あらためて、受章に際しご尽力をいただきました多くの皆様に心から感謝申し上げ、青森県臨床検査技師会のさらなる発展を願っております。

本当にありがとうございました。

特別功労賞を受賞して

八戸市立市民病院 診療局 救命救急センター 奥沢 悅子

この度は特別功労賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。心よりお礼申し上げます。

おかげ様で私の技師会員歴は30年を越え、その間、様々な施設で働き、多くの先輩方と臨床検査業務を担当する機会がありました。振り返ると、病理・細胞診検査が大半を占めておりましたが、この業務担当となるきっかけは、青森県立中央病院および当時の東青支部の病理・細胞診担当されていた皆様との出会いです。細胞検査士の認定資格取得は極めて困難とされ、情報量の少ない時代でした。その環境下でも横山慶一氏、檜山美佐江氏、斎藤千世子氏、吉岡治彦氏、青森県総合健診センターの細胞検査士の諸先輩方より、献身的な支えにより細胞診検査業務に携わることができました。この出会いこそが私自身の全ての原点であり、技師会活動にも繋がって参りました。細胞診精度管理調査を担当した際には、必ずアウトカムを重視し、「出題意図」を提示することを心掛けてまいりました。3度挑戦してきた細胞検査士の資格認定試験での勉強方法は、その後の細胞検査士を目指す皆様へ向け、情報提供をさせて頂き、受験生に少しでもお役に立てればと活動してきました。

青臨技会長職の拝命後は、コロナ禍でのタスク・シフト/シェア厚生労働大臣指定講習会や各種研修会による人材育成など、円滑になるよう微力ながら仕事をさせて頂いております。これも皆さまの支えとご協力のおかげです。今後、少子高齢化、人口減少に伴う臨床検査に関する業務内容の変化や将来を担う青森県内の臨床検査技師数の減少など課題は山積ではございますが、日進月歩の医療AI・医療DXなどの技術革新と青森県臨床検査技師会の会員皆様の協力により、難局を乗り切ると信じております。2026年9月には、実に64年ぶりとなる青森県担当となった第75回日本医学検査学会が控えております。引き続き後進のためになるような仕事に邁進してまいりたいと存じます。本当にありがとうございました。

特別功労賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院 石山 雅大

このたびは、青森県臨床検査技師会より特別功労賞という身に余る栄誉を賜り誠に光栄に存じます。これまでの活動に対し、このような形で評価をいただけたことに心より感謝申し上げます。医療現場における検査技術の向上や後進の育成、地域医療の発展に少しでも貢献できればとの思いで、学会活動や研修会の企画・運営にも携わってまいりました。これらの取り組みが、微力ながらも青森県臨床検査技師会の発展に寄与できたのであれば、これ以上の喜びはありません。

臨床検査技師として、国立療養所岩木病院(現 国立青森病院)をスタートに、一度他県の山形大学医学部附属病院を経て、その後、弘前市立病院、現在の弘前大学医学部附属病院に至るまで長きにわたり青森県臨床検査技師会の皆様、各企業様・関係各位には大変お世話になりました。これまで多くの先輩や仲間に恵まれたことに感謝いたします。

技師会活動としては、弘前市立病院で一般検査を担当したと同時に中弘南黒支部一般検査研究班長(26歳)、30歳で青臨技一般検査研究班長、34歳で全国委員(日臨技一般検査分野員)、35歳で髓液検査法 2002を出版、その後は日臨技の各委員、200回を超える講演活動と学会発表、論文・医学誌投稿を続けてまいりました。青臨技では、一般・生化学・遺伝子・血液・総合管理の5部門で部門長、斎藤浩治会長のもと副会長も担当いたしました。現在も日本医療検査科学会理事をはじめ、日本検査血液学会や日本臨床検査医学会などで評議員などを務めています。これは、実力がどうのこうのではなく、声をかけられたらまずはやってみる、できなかつたらゴメンナサイをすればいいと考えがあるだけです(笑)。忙しいのは皆さん一緒です。与えられたことをチャンスと勝手に理解し、いろいろと挑戦してくださいと皆様にお伝えしたいと思います。

現代はVUCAの時代と言われ、新型コロナ感染の蔓延をはじめ気候変動、政治、経済、国同士の争いと我々の想像を超える不安定な時代となっています。医療においても同様のことが言えます。臨床検査技師もこれまで以上に柔軟な対応とスピードを求められることになります。一職人の気質のままでは、おそらく時代に取り残されていくでしょう。臨床検査技師も自ら新しい時代を構築していくかなければなりません。

末筆ながら、今回の受賞にあたりご尽力いただいた奥沢会長、吉田副会長、逆井事務局長をはじめ関係者の皆様、日頃よりご指導・ご支援を賜っているすべての皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

功労賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院 櫛引 美穂子

この度は、「青臨技功労賞」を受賞させていただきましたこと、誠にありがとうございます。受賞にあたり、長きにわたる青森県臨床衛生検査技師会会員の皆様からのご指導、ご鞭撻に対し、心より感謝申し上げます。

「功労賞」と聞いて、諸先輩方が学会のステージ上に立ってご挨拶されていた光景が浮かび、私自身も臨床検査技師として長く務めたのだと感慨深いものがあります。思い起こせば、地元秋田の病院から弘前大学医学部附属病院への移動が決まった時には、臨地実習での緊張感をそのまま引きずった日々を過ごしていたように思います。数年して、技師会支部・中弘南黒地区の“組織調査”というお役目で初めて技師会活動に参加いたしました。当時の支部長であった田中一人さんの柔らかい笑顔に救われながら、勤務しているだけではなかなかお会いできない先輩方とお酒を酌み交わしたことも懐かしく思い出されます。地区では支部長、学術研究班、県技師会では学術研究班、精度管理なども担当させていただきました。学術研究班の現在は、若手の後輩たちがグイグイ元気に活躍しており、その姿はとても頼もしく映ります。

私は、ここ数年の新しいカリキュラムである臨地実習指導者として、少しでもお役に立てるようでしたら嬉しいです。

これからも青森県臨床衛生検査技師会がますますご発展されますよう祈念したしております。この度は本当にありがとうございました。

功労賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院 三上 昭夫

この度は功労賞をいただき誠にありがとうございます。こころよりお礼申し上げます。

技師会の活動を行ってきた中で印象強く記憶に残っていることを一つ紹介しますと、生物化学部門の部門長であった平成25年11月に日臨技北日本支部生物化学分析部門研修会を開催したことです。部門長をお願いされた後に、北日本の研修会が青森県担当で開催しなければならないことを知られ、当時はとても慌てたものでした。事前調査不足でした。資料集の表紙を飾る写真を撮りにねぶたの家ワ・ラッセに行ったことや、今回の県学会でも公開講演をしていただく中路重之先生に当時も特別講演をお願いしたことなどが思い出されます。当時スタッフとして協力していただいた皆様にはとても感謝しています。

その後、平成29年度からは技師会役員として会計を担当しました。同じ職場に事務局もおかれたので、作業をするうえでは非常に助けて頂いたことに加え、事務局の苦労を初めて実感しました。今でもその大変さは、あまり変わっていないのではないかと思っています。当時の事務局の皆様、さらには各支部の会計の方々には大変お世話になりました。

最後になりますが、青森県臨床検査技師会の益々の発展と会員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

奨励賞を受賞して

八戸赤十字病院 逆井 久美子

このたびは、青森県臨床検査技師会奨励賞という身に余る賞を頂き、大変光栄に存じます。まさか自分がこのような賞をいただける日がくるとは思っておらず、驚きとともに、これまで関わってくださったすべての方々のお力添えの賜物であり、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

私はこれまで、検査技師としての知識取得や技術の向上に努めるとともに、患者さんやスタッフが安心・安全に過ごせるように、日々の業務改善に取り組んできました。また、業務上の有益性だけにとらわれず、患者さんやスタッフの心情にも寄り添う姿勢を大切にしてきました。時に戸惑い、悩むこともありましたが、その度に支えてくださったのは、職場の先輩方や同僚、そして地域医療の現場で共に働く仲間の存在でした。特に、技師会活動においては、理事や部門長の就任、学会・研修会での発表や論文作成の機会を通して、他施設の多くの方々と出会い、多くの刺激を受けました。これらの経験は、私が検査技師として成長する上でかけがえのない財産となりました。

今回の受賞は、決して私一人の力で得たものではありません。知識や技術を惜しみなく教えてくださった方々、一緒に励まし合いながら働いてきた同僚、そして温かく見守ってくださった患者様やご家族のおかげです。この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

この賞を励みに、これからも専門職としての責任と誇りを胸に、より一層の研鑽を重ねてまいります。また、頼れる先輩として技術の承継と後輩の育成にも力を注ぎ、検査技師会の発展に僅少ながらも寄与出来るよう今後も精進してまいりたいと存じます。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

奨励賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院 武田 美香

このたびは、青臨技奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。受賞にあたり、奥沢会長をはじめ、青森県臨床検査技師会の役員の皆様、そして当院検査部の皆様に心より感謝申し上げます。私が青森県臨床検査技師会に所属したのは2015年6月のことです。その数年後の2018年には、生理機能検査部門員および精度管理委員を拝命しました。それまで私は、提示された問題に取り組む立場でしたが、問題を作成・解説する立場になり、その難しさと責任の重さを学ぶ貴重な機会となりました。従来、心電図に関する問題が中心でしたが、近年では肺機能検査、超音波検査、脳波検査なども取り入れ、問題の幅を広げるよう努めてまいりました。生理検査は多岐にわたる分野であり、私一人の知識では作成に限界があります。そのため、現在も他施設の技師の皆様のご協力を得て、数名で問題作成に取り組んでおります。協力してくださる皆様のおかげで、これまで継続することができました。この場をお借りして、改めて深く御礼申し上げます。精度管理委員を4年間務めた後、前任の田嶋育子さんより生理機能検査部門長を引き継ぎ、現在は2期目を迎えております。生理機能検査部門は、心電図、肺機能、超音波、神経生理など、領域が多岐にわたり、それぞれに専門学会も存在します。学ぶ機会が多くある中で、県技師会に求められる「役割」とは何かを常に考えながら、研修会の開催に取り組んでまいりました。また、部門長として活動する中で、県内外の他施設ともつながりを持つことができ、情報交換や学び合いの場となるコミュニティも築くことができました。私の部門長としての任期も、残すところあと1年となりました。今後は次世代へとバトンを渡し、微力ながら陰ながらサポートしてまいりたいと考えております。最後になりますが、青森県臨床検査技師会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

第51回青森県医学検査学会を終えて

八戸赤十字病院 野中 健一

令和7年6月15日（日）、八戸グランドホテルを会場に、第51回青森県医学検査学会を開催することができました。今回の学会はコロナ禍前と同様に、前日土曜日に精度管理指導講習会と青臨技定時総会を行い、夜には情報交換会と祝賀会で盛り上がり、翌日は学会という二日間の現地参集型で行いました。しばらく情報交換会がなかったことと、前回の八戸での学会（第45回）を運営委員長として経験していましたから、もう一度二日間の日程に戻してみようとした企画しました。実際にやってみて思ったことは、昨今の物価の上昇で会場費や飲食費などほぼすべてで値上がりし、前回よりも予算がだいぶ大きくなりました。コロナ禍からしばらくお世話になっていたイベント会社に、舞台・音響照明・映像配信をお願いする余裕もなく、三八支部会員の多くの協力で開催することができました。三八支部は会員数が多いため可能ではありましたが、会員数の少ない支部で行う学会ではイベント会社に運営を委託することや、学会開催支部の再編も必要かと個人的には感じました。

さて、久しぶりに行った情報交換会では、瑞宝双光章と厚生労働大臣表彰、青臨技功労賞・奨励賞の祝賀会もあわせて行いました。特に瑞宝双光章の川村多蔵氏と坂牛省二氏、厚生労働大臣表彰の齋藤浩治氏と石山雅大氏には、これまでの青臨技に対する多大なる貢献にあらためて感謝いたします。この会は素晴らしい司会進行もあり、受章者を囲みながら楽しく有意義な会員の交流がきました。参加した95名の皆様、本当にありがとうございました。

第51回青森県医学検査学会では会員、賛助会員、学生と合わせて191名の参加者がありました。会場の大きさがちょうどよく、ほぼ満員のような会場で一般演題16題と公開講演、特別講演が行われました。若い技師の方々にとって、たくさんの聴衆の前での発表は、貴重な経験となったこと思います。公開講演では、弘前大学特別顧問 中路重之先生より「青森県における多職種連携による短命県返上活動」

と題しご講演いただきました。中路先生には講演最初のスライドのトラブルを物ともせず、軽妙なトークで講演が中断することなく無事にご講演いただき感謝いたします。特別講演では、仙台赤十字病院 検査技術課長 夔甚満先生より「自分の人生を支えた臨床検査技師という仕事」と題しご講演いただきました。舛甚先生には同じ赤十字病院の仲間として、しばしばお酒を酌み交わす仲ではありますが、お酒の席での講演依頼を快く引き受けてもらい感謝しかありません。

無事に二日間を終えることができ、関わって頂いた皆様に心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

【研修会報告】

令和3年度青臨技臨床血液部門研修会報告

八戸市医師会臨床検査センター 尾崎 由佳

12月3日に行われた、令和3年度青臨技臨床血液部門研修会について報告いたします。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ZOOMを使用しての開催となりました。

1題目は、「末梢血液像の観察法」と題して、弘前大学医学部附属病院の小笠原脩技師による講演でした。顕微鏡の使い方や血小板凝集、白血球の細胞質が壊れているときの対処法など、末梢血液像を見るために必要なことを幅広くご講演いただきました。顕微鏡は普段何気なく使用していますが、基本を正しく理解していかなければ正確に標本を観ることはできませんので、自分の顕微鏡の使い方を見直したいです。また、血小板凝集の原因が採血手技によるものかEDTAによるものかはフィブリンの有無で判断可能であり、それぞれ対処法が変わってくるので、よく観察することが重要だと再認識しました。私が特に印象に残っているのが、輸血検査で使用するアルブミンやPEGを血液に添加すると、細胞の壊れを回避しやすくなるというお話です。教本にはあまり詳しく載っていないことを教えていただけたので、自施設ですぐ実践し、カウントの際に参考にしています。

2題目は、「症例検討」と題して、八戸市立市民病院の大井惇矢技師による講演でした。実際の検査データや血液像の動画を見て症例について考えていき、最終的に骨髄線維症と診断された患者でした。検査データから考えられることは何か、標本から気になる所見はないか、追加検査は何をすべきかなど、ただ機械から出たデータを臨床に返すのではなく、確定診断の補助のため自分で考えながら検査を進めていく力を持つことが必要だと感じました。検査センターではあまり症例がないため、実際の検査の流れや考え方を学ぶことができ、大変参考になりました。

今回は現地開催とはなりませんでしたが、ZOOMを使用しての研修会は誰でも簡単に見ることができ、多くの方が参加可能ですので、メリットもたくさんあると感じました。今後どのような開催形式になるか分かりませんが、積極的に研修会に参加して知識を身に付けていきます。

最後に、講師の方々、研修会を企画・運営してくださった方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和5年度青臨技第2回臨床血液部門研修会報告

八戸市医師会臨床検査センター 尾崎 由佳

2月2日に行われた、令和5年度第2回青臨技臨床血液部門研修会について報告いたします。今回は「精度保証」をテーマに、「ISO15189」と「凝固検体取り扱いに関するコンセンサス」の内容で開催されました。

1題目は「血液検査のISO15189における精度保証とは」と題して、システムズ株式会社 猪俣記一先

生によるご講演でした。2022年に第4版であるISO15189:2022が発行され、その構成やISO15189:2012からの変更点、精度保証に関する要求事項など幅広くご説明いただきました。ISO取得施設・取得予定の施設にとって大変参考になる内容であり、取得していない施設でも検査の質を担保するために知っておくべき知識であると感じました。

2題目は「ISO15189取得施設における血液部門精度管理」と題して、青森県立中央病院 寺嶋駿技師、弘前大学医学部附属病院 小笠原脩技師の2名より、取得施設における運用方法についてのご講演でした。内部精度管理の実施頻度や時間、シフト・トレンド現象が検出された場合の対処法、管理幅の設定方法、機器・試薬の管理、形態検査における内部精度管理方法、外部精度管理への取り組みなどを紹介いただきました。大規模病院の運用を知る貴重な機会であり、他施設を参考に自施設に合った運用を考えるきっかけとなりました。

3題目は「凝固検体取り扱いに関するコンセンサスについて～青森県の現状と解説～」と題して、八戸市立市民病院 大井惇矢技師によるご講演でした。先日実施したアンケートを基に青森県内の現状を解説いただきました。凝固検査は、採血順序や採血量、高Ht、遠心条件、保存条件、検体の性状など検査結果に影響を与える様々な要因が存在しています。しかし県内のコンセンサス遵守率は低く、そもそもコンセンサス自体知らない施設もあり、まずは認知度を高める必要があると感じます。今回のアンケートで今まで明らかになっていなかった県内の現状や課題を把握できたことは、標準化に向けての大きな一歩となりました。検体が正しく取り扱われなければ患者の病態を反映した検査結果を出すことはできません。今すぐ改善が難しいという点もありますが、施設ごとに出来ることから取り組み、標準化に努めてほしいと思います。

質疑応答の時間には多くの質問が寄せられ、参加者の皆さんのお講演内容に対する関心の高さがうかがえました。私たち臨床検査技師は、責任を持って検査結果を臨床に報告しなければなりません。患者が不利益を被ることがないよう、検査結果の信頼性を保証するために自施設ですべきことは何かを考えて取り組んでいきたいと思います。

最後に、講師の方々、研修会を企画・運営してくださった方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和7年度青臨技輸血細胞治療部門研修会

弘前総合医療センター 松下 紘

2025年9月20日「令和7年度青森県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門研修会 認定輸血検査技師試験対策研修会（入門編）」が弘前大学医学部附属病院輸血部にて行われました。昨年に引き続き実技を含めた研修会で、今回はさらに認定輸血検査技師資格取得を目指す技師への入門編として、認定試験に基づく内容になっていました。

前半は、認定を取得されている弘前大学医学部附属病院金子先生、亀山先生、青森市民病院本田先生に、認定取得のきっかけや当時の試験内容、取得後の認定輸血検査技師としての活動内容をご講演いただきました。現状における試験の傾向や対策方法、また資格の取得がゴールなのではなく、取得後の委員会や学会等、院内外の活動の重要性を学びました。

後半は、実際の実技試験の一部が再現された血液型検査3検体及び机上問題3症例の実技研修が行われました。ガイドラインやマニュアルに載っていることだけでなく、採点箇所となりうる手技や注意点、普段の業務にも活かせることまで細かくご指導いただきました。その後、弘前大学医学部附属病院内田先生、青森県立中央病院坂本先生に問題の解説をしていただき、予期せぬ反応に対する原因と必要となる追加試験の適切な選択、輸血の対応を学びました。

今回の研修会は、認定取得を目指す技師にとって非常に有意義な内容でした。より安心安全な輸血療法

を実現するため、今後の業務に一層励みたいと思います。本研修会を企画・運営してくださった実務委員の方々に深く感謝申し上げます。



【理事会議事録】

令和7年度第1回理事会議事録

- 日 時：令和7年5月26日（月）：17:30-18:40
 - 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、鳥谷部慎子、中島有里、金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、中村忠善
 - 欠席者：須藤安史
- 定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

①各種研修会

・青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

02/26 令和6年度 三八支部 輸血細胞治療部門研修会…参加者：18名

03/01 令和6年度 青臨技 染色体・遺伝子部門研修会（第1回）…参加者：17名

03/08 令和6年度 青臨技 臨床血液部門研修会（第2回）…参加者：38名

03/01 令和6年度第3回下北支部研修会…参加者：15名

03/15 青森県感染対策協議会（AICON）検査技師部会研修会（ミーティング）

…参加者：25名

04/26 令和7年度 青臨技 臨床微生物部門研修会（第1回）…参加者：39名

・その他

04/20 日本医療検査科学会 第39回春季セミナー…参加者：73名

〈今後開催予定の学会・研修会〉

05/31 令和7年度 青臨技 臨床検査総合部門研修会

06/07 青森県輸血療法懇話会

06/15 第51回 青森県医学検査学会

06/26 令和7年度 青臨技東青支部 生物化学分析部門研修会

・北日本支部

9/6～9/7 日臨技北日本支部 臨床一般検査部門研修会（担当：青森県）

11/15～11/16 第13回 日臨技北日本支部医学検査学会 新潟県新潟市

日付未定 日臨技北日本支部 臨床生理部門研修会（担当：青森県）

・全国学会

2026/09/26～27 第75回 日本医学検査学会 千葉県千葉市（幕張メッセなど）

②令和6年度 精度管理指導者講習会・・・6/14 八戸グランドホテルにて開催

各部門の担当者（12発表）より、音声入りのスライドを会場で視聴。

14:30～16:40までの130分の限られた時間のため、原則会場からの質問には対応しない方向。後日動画配信の予定ではあるが、動画配信の視聴においては「日臨技生涯教育」の点数の取得はなし。

③その他・・・令和7年度 第1回部門長会議（6/15 八戸グランドホテルにて開催）

2. 公益部経過報告

木村副会長より高校生心電図検診について以下の報告があった。

前期の分は終了。欠席者や再検査の調整を各支部で行っている。

3. 涉外部経過報告

奥沢会長より検査と健康展、JIMTEFについて以下の報告があった。

「検査と健康展」を今年度も開催する予定。JIMTEF 候補に関して推薦方法をどうするか検討が必要。両方とも須藤涉外部長が担当。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

（一社）青森県臨床検査技師会

4月からの総数：新入会 6名、再入会 1名、転入 3名、転出 4名、退会 0名

会員数：629名（新入会 7名、転入 1名、転出 3名）、名誉会員 7名、永年会員 49名

①次年度の理事の選出について、支部で相談して選出をお願いします。

②議事録の10年保存について事務局で確認する。

③定時総会について

表彰は木村副会長、表彰補助は佐藤理事と高松理事、表彰時の司会は中村監事にお願いする。

5. 奥沢会長より報告

①第74回日本医学検査学会 5月9日～11日（グランキューブ大阪）

担当者顔合わせ・挨拶まわり・視察等を実施した。

一般演題 507演題、特別企画 30企画、展示 68社。大会場の使い方・時間割によって、収容人数が適正ではない会場があり、収容人数の差が見受けられた。

ランチョンセミナーが少ないせいか、弁当が不足。軽食コーナーは必要との意見が聞かれた。

情報交換会：挨拶長い。挨拶聞いてない。アトラクションによって会話できない時間が長い。飲食

に並ぶ時間が長い割には、テーブルには食べ残しが多い。バイキングだが何らかの工夫は必要。
良かった点：我々75JAMT のブースで放映ビデオ内容がよく、問い合わせがきた。半纏・広告用ポスター、リンゴマークのロゴ、付箋も好評であった。

②北日本支部

タスクシフト指定講習会は岩手県アイーナ（6/22 開催）が他県開放となり、5/19 時点で開催が決定。青森県から 20 名が参加（5/19 時点）

③日臨技より

・学会支部研修会あり方委員会

従来の日本医学検査学会・支部学会では、学会は学会における医師、診療放射線技師などのメディカルスタッフが共同演者の時は、非会員のため、5000 円支払って抄録に掲載されていたが、これを無料とする。この取り決めは臨床検査技師だが日臨技非会員の場合に適用となる。

・日臨技第 1 回理事会

令和 7 年度定時総会 6 月 28 日（川崎）開催。令和 6 年度の事業報告では予算約 13 億円、精度管理事業等で約 14 億円、約 1 億円の負債となる。日臨技で理事会の現地開催を一部 Web 開催にして、開催場所も技師会館（大森）・宿泊場所は近隣の安価なホテルへ変更。精度管理事業を縮小することなく、電子書籍化や郵便等の搬送をメールにする等で約 1 億円を解消する予定。

・臨床検査技師の臨地実習における受け入れの施設側への費用を今後検討していく。

12 科目から 14 科目へと新しいカリキュラムになり、臨地実習での評価法に関する WG が立ち上がる。

また臨地実習施設の実施内容をシステム管理、マッチングができるシステムの検討をする。7 月にシステム改修費用を盛り込む予定。

④青森県臨床検査技師会長、日臨技理事 奥沢悦子 行動報告

2025 年

3 月 4 日（火）日臨技予算委員会（web）

3 月 5 日（水）日臨技災害 WG 会議（web）

3 月 12 日（水）日臨技災害協定 Web 説明会

3 月 17 日（月）日本臨床検査振興協議会 大規模災害対策委員会会議（web）

3 月 18 日（火）日臨技 全国支部学会研修会あり方委員会（web）

3 月 19 日（水）日臨技依頼令和 6 年度「医療フォーラム 21」シンポジスト（東京）

3 月 22 日（土）第 7 回日臨技理事会（川崎）

3 月 24 日（月）75JAMT 企画打ち合わせ（web）

3 月 31 日（月）日臨技 生涯教育あり方委員会（web）

4 月 10 日（木）～13 日（日）第 16 回アジア太平洋医療検査科学フォーラム

国際会議出席依頼あり、E-ポスター発表（台湾）

4 月 19 日（土）青森県医師会 野田浩医師と面談 精度管理事業について

4 月 20 日（日）日本医療検査科学会春季セミナー（弘前）情報交換会にて紹介あり

4 月 21 日（月）「連盟」勉強会参加

4 月 26 日（土）第 1 回日臨技理事会（川崎）

4月29日（火・祝日）青臨技 会計監査（八戸市内）
4月30日（水）日臨技依頼：参議院 中田宏議員との対談（参議院会館）
5月9日（金）～11日（日）第74回日本医学検査学会（大阪）
75JAMT 視察・教育講演・演者・次年度学会長挨拶
5月21日（水）日臨技 生涯教育あり方委員会（web）
5月22日（木）日臨技 全国支部学会研修会あり方委員会（web）

【議題】

1. 令和6年度収支計算書について
久保沢会計担当から令和6年度の収支計算書について報告があった
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 第51回青森県医学検査学会の進捗状況について
要旨集が大体出来上がり順調に進んでいる。6/6に情報交換会とランチョンセミナーの締め切り。参加人数が確定したらサイボウズで連絡する。費用を抑えるのであれば次回も現地開催。1日でZoom無しの現地開催ならかなり費用を抑えることができる。
2. 会費の値上げ以外での赤字対応策について
出費赤字解消が必要である。学会会場の選定（ほぼ会場費がかからない場所での開催）、学会開催期間を検討する、青臨技会誌の電子書籍化への移行、日臨技生涯教育研修制度（都道府県技師会開催生涯教育推進研修会への助成）を20件100%で助成金（1件5万円）申請する等、の解消策が挙げられる。
現在、年会費7000円。会費値上げはせずに、対抗措置で様子をみるでよい。
3. 野球肘検診について
7月5日（土）に実施予定。むつ総合病院から5名、公立野辺地病院の吹越さん、齋藤監事が担当する。
4. 第52回青森県医学検査学会について
2026/6/28（日）に青森市のアラスカ会館で開催予定。メイン会場の他に小さめの会場も確保している。会場費の見積もりは50万円。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和7年度第2回理事会議事録

1. 日 時：令和7年6月14日（土）13:00～13:30
2. 場 所：八戸市番町14番地
八戸グランドホテル 1階ブルミエ
3. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、鳥谷部慎子、中島有里、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、中村忠善

4. 欠席者：金子なつき

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に高松理事が指名され、審議が行われた

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より7月12日青森市にて医師・検査技師卒後教育研修会開催予定。
その他県の研修会等は次回の理事会で報告するとの報告があった。

2. 公益部経過報告

木村公益部長より令和7年度の高校生心電図は現在欠席者対応を行っている。今年度の検診終了後に県医師会と意見交換会を開催する予定。野球肘検診はむつ市で7月5日（土）に開催予定との報告があった。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より以下の項目に関して報告、提案があった。

①検査と健康展

今年度は11月頃弘前方面で開催したい。弘前大学の千葉先生、上野先生と協議しながら進めていきたい。

②災害対策マニュアル

サイボウズにアップした案を確定としてもよいか理事会で承認をいただきたい。出席者全員が異議なく了承し、初版とすることとなった。

③災害訓練

奥沢会長より大規模災害訓練が青森県で実施される。関連団体として青森県臨床検査技師会も入っていますので皆さん協力をお願いしますとの報告があった。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

①会員数報告

会員数633名、入会12名、再入会0名、転入1名、転出2名、退会1名
名誉会員7名、永年会員49名

②JIMTEF 災害医療研修

9月16日までの推薦になるため1名候補者を選出してほしい。

③総会

本日17時より総会になります。皆さん協力よろしくお願いします。

5. 奥沢会長より報告

①日臨技定時総会

議決権行使がまだ4割程度。リマインドメールは随時送信するが、まだの方は早めに行使してください。

②タスク・シフト/シェア

県単位の開催から地域を広げての開催とする予定。オンライン未受講者の受講をどのように促していくのかが課題。

③75JAMT

今月末から来月で幕張と ZOOM にて打ち合わせ予定。

10月の JAMT マガジンに 75JAMT に関して投稿予定。期限が 7月末となっている。

④医学検査・JAMT マガジン

日臨技より現在郵送されているが、11月号より完全電子化となる。

⑤青森県臨床検査技師会長、日臨技理事 行動報告

2025 年

5月 31 日 (土) 青臨技総合管理部門研修会(座長)

6月 3 日 (火) 第 4 回日臨技災害WG会議 (web)

6月 11 日 (水) 北日本支部：臨時支部幹事会(zoom)

【その他】

1. 県学会

野中理事より、現在準備作業を進めている。皆さんの協力よろしくお願いしますと報告があった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和 7 年度第 3 回理事会議事録

1. 日 時：令和 7 年 9 月 30 日 (火) : 18:00-19:20

2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、

齋川牧子、齋藤賢、中島有里、金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、
千葉満、齋藤浩治、中村忠善

3. 欠席者：木村正彦、須藤安史、小山内誠、鳥谷部慎子

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

①各種研修会

・青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

05/31 令和7年度 青臨技 臨床検査総合部門研修会（第1回）…参加者：33名

06/07 青森県輸血療法懇話会…参加者：18名

06/14 令和6年度青臨技精度管理指導講習会…参加者：98名

06/25 令和7年度第1回下北支部研修会…参加者：14名

06/26 令和7年度 青臨技東青支部 生物化学分析部門研修会…参加者：14名
07/12 令和7年度(第50回) 医師・検査技師卒後教育研修会…参加者：52名
07/13 令和7年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第1回）…参加者：248名
07/24 令和7年度 三八支部 病理細胞部門研修会…参加者：19名
07/26 青森臨床検査技師会西北五支部夏季研修会…参加者：25名
08/27 令和7年度 三八支部 臨床生理部門研修会…参加者：53名
09/13 2025年度青森県感染対策協議会（AICON）総会及び特別講演会…参加者：13名
09/18 青森県臨床検査技師会 中弘南黒支部 臨床生理部門研修会…参加者：17名
09/18 令和7年度 三八支部 生物化学分析部門研修会…参加者：27名
09/20 令和7年度 青臨技 輸血・細胞治療部門研修会（第1回）…参加者：10名

06/14 令和7年度 一般社団法人 青森県臨床検査技師会定時総会…参加者：95名
07/13 第38回弘前市市民の健康まつり…参加者：9名

・その他

06/15 第51回青森県医学検査学会…参加者 会員150名、賛助会員29名、学生5名、その他7名
11/15～16 令和7年度 日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）…新潟県

・今後開催予定の学会・研修会

10/18 WEB開催 輸血セミナー
10/25 令和7年度三八支部臨床一般部門研修会
11/05 令和7年度三八支部臨床血液部門研修会（WEB）
11/29 令和7年度 青臨技 臨床血液部門研修会（第1回）

・北日本支部

10/18～19 令和7年度 日臨技北日本支部生物化学分析部門研修会…福島県
(11/01～30 オンデマンド配信あり)
10/25～26 令和7年度 日臨技北日本支部臨床生理部門研修会…青森県
(11/10～12/21 オンデマンド配信あり)

11/01～30 令和7年度 日臨技北日本支部臨床検査総合部門研修会（WEB）
11/01～30 令和7年度 日臨技北日本支部生物化学分析部門研修会
11/22～23 令和7年度 日臨技北日本支部輸血細胞治療部門研修会…北海道
(12/01～12/31 オンデマンド配信あり)

2026年

01/19～02/23 令和7年度 日臨技北日本支部臨床血液部門研修会（WEB）
02/01～02/28 令和7年度 日臨技北日本支部病理細胞部門研修会（WEB）

・全国学会

2026/09/26～27 第75回 日本医学検査学会 千葉県千葉市（幕張メッセなど）

②令和7年度 青臨技精度管理調査の進捗状況（スケジュール含む）

・9月中旬：学術部長より各部門長へ実施内容の確認し、開催案内など作成

9月22日（月）を提出締め切り

- ・10月1日（水）に各施設連絡責任者への一斉メール（青臨技ホームページへの掲載）
青臨技ホームページ上でGoogleフォームを用いて申込みを行う（QRコードも掲載）
申込締切 10月14日（火） 17:00まで
- ・学術部長が参加施設、項目をまとめ、各部門長と精度管理担当者へ送付（サイボウズまたはメールにて）。
部門長は試料の準備（生物化学分析部門、病理細胞部門、輸血細胞治療部門 臨床微細物部門の各部門）。
上記4部門以外の部門長はフォトサーバイ、アンケートなどを準備。
- ・11月8日（土）：精度管理担当者および協力可能な会員で試料の梱包・発送の準備
(冷蔵にて)。…三八支部で試料の発送を行う（今年も八戸赤十字病院で実施）

※出題に形式はGoogleフォームを利用で実施

- ・11月末：各施設からの回答締め切り（回答締切 11月28日（金） 17:00まで）
- ・12月末（年内）：各部門集計し、報告書を提出。
…提出された報告書は青臨技学術担当者が査読
- ・翌年の1月：査読が終了した報告書を順次青臨技HPへ掲載。
- ・2～3月上旬：精度管理調査報告会（オンデマンド配信）の予定。

2. 公益部経過報告

木村公益部長欠席のため、逆井事務局長より以下の報告があった。

①心電図検診について

後期入学者の心電図検診日程

○北斗高校通信制：10名（男4、女6）

10月1日（水）10:30～

○尾上総合高校通信制

後期入学者がいないため実施なし。

②医師会、青臨技で協議し、検査開始から終了までの流れを網羅した心電図検診のマニュアル整備を行っている。

③野球肘検診について

各地区でスタッフを募集中

青森地区 11月22日（土）、24日（月・祝） 会場：荒川市民センター

十和田地区 11月30日（日） 会場：十和田市志道館 多目的室

弘前地区 12月6日（土）、7日（日） 会場：はるか夢球場

五所川原地区 12月13日（土） 会場：五所川原市中央公民館 大ホール

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長欠席のため、奥沢会長より以下の報告があった。

①9月5日（金）、9月6日（土）、日本臨床衛生検査技師会大規模災害模擬対応訓練に青技から奥沢会長、小倉達也技師（青森県立中央病院）も参加した。Google フォームを使用し、県内の被災状況などについて情報収集し、日臨技に報告した。県内では27施設より情報提供あり。

②検査と健康展2025青森県を11月24日（月、祝日）10時～14時に弘前市のヒロロスクエアにて開催。

内容は例年同様。弘大学生さんにも当日スタッフのお願い予定。他にも参加できる方がいれば連絡

下さい。

③日臨技政策涉外関連事項等における現状把握のための調査協力施設

各病床数に、八戸市立市民病院、つがる西北五広域連合つがる総合病院、医療法人平成会八戸平和病院、公立七戸病院で決定。この調査協力の期間は2年間。

④第20回JIMTEF災害医療研修会ベーシックコースに、岡本光代技師(つがる西北五広域連合つがる総合病院)を推薦した。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

(一社) 青森県臨床検査技師会

4月からの総数：新入会21名、再入会2名、転入4名、転出3名、退会1名

会員数：629名(新入会0名、転入0名、転出0名)、名誉会員7名、永年会員49名

①賛助会員の申込状況(9月末で締め切り)

現在受付された分は35社、バナー広告は9社。

②論文投稿(9月末で締め切り)

現在5編+講師分2編。

編集は会誌編集委員に依頼したい。

10月1日以降に会誌編集委員のサイボウズ参入予定。

会長へ巻頭言依頼しておきたい。

③八戸市精度管理専門委員について

堀内弘子さんに依頼した。

八戸市医師会臨床検査センター 10月27日(月)14時～

BML八戸 10月27日(月)15時30分～

④75JAMTについて

知事に26日土曜の式典・情報交換会へ正式に打診した。

5. 奥沢会長より報告

①令和7年度大規模地震時医療活動訓練への参加協力していただいた。

県内の施設責任者へ配信した安否確認・被災状況などのGoogleフォームの回答は、県内94施設中、返答入力は32施設であった。本訓練のクロノロジーを含む報告内容は、会報JAMTマガジン10月号に掲載される。なお、齋藤浩治監事より、このGoogleフォームへの未回答であった理由に関する検討が必要との意見が出された。未回答に関する検証を後程、実施する事とした。

②CVIT研修会後援依頼があり。昨年同様、承諾している。

③日臨技より

第3回日臨技理事会開催：2025年9月27日(土)9:30～12:30

・タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会の修了率は全国平均で「48.4%」。青森県は「58.4%」会員すべての受講が必要であるが、頭打ち状態である。継続して会員への積

極的な受講を勧めてみるが、今後も開催地の集約・遠方となる見込みである。

- ・会誌「医学検査」ならびに JAMT マガジンの電子書籍化となるが、今まで大学・関連団体へ「医学検査」寄贈していた分に関しても、提供を中止することとした。
- ・なお、日本医学検査学会のポケットプログラムの紙媒体は最終的に廃止となるが、当面は、当日配布用として紙媒体と残す（第2回日臨技理事会）。
- ・日臨技事務局の電話機に全通話録音機能が導入される。
- ・臨地実習管理システム導入がされ、学校側とのマッチングが円滑になる見込み。
- ・第3回日臨技理事会において、74JAMT より学会開催報告書が提出され、この資料はサイボウズにおいて実務委員へ情報提供した。

④第50回青臨技会誌への投稿について

- ・投稿内容を確認しているが、投稿規定が守られない内容構成のままでの投稿が続いている。
- ・この対応策として、中村忠善監事より、各施設責任者宛に、論文投稿に関して共著者による論文内容の確認依頼をしてはとの提案が出された。会長名で施設責任者宛にこの依頼内容を配信する事とした。
- ・千葉満理事より、他の学会での論文投稿を参考にした論文投稿チェックの様式を添付するなどの案がだされ、この参考となる様式フォーマットを千葉満理事が検索を担当して頂けたことなった。

⑤青森県臨床検査技師会長、日臨技理事 奥沢悦子 行動報告

2025年

- 6月15日（日）第51回青森県医学検査学会
- 6月16日（月）「連盟」勉強会（web）
- 6月17日（火）北日本支部学術集会企画パニック値打合せ（web）
- 6月18日（水）令和7年度大規模地震時医療活動訓練：調整会議（web）
- 6月26日（木）日臨技 第2回生涯教育あり方委員会（web）
- 6月28日（土）日臨技 令和7年度定時総会出席（川崎）
- 7月1日（火）令和7年度大規模地震時医療活動訓練：調整会議（web）
- 7月2日（水）日臨技 全国支部学会研修会あり方委員会（web）
- 7月9日（水）令和7年度大規模地震時医療活動訓練：調整会議（web）
- 7月9日（水）75JAMT 企画：メッセとの打ち合わせ（web）
- 7月11日（木）令和7年度大規模地震時医療活動訓練：調整会議（web）
- 7月12日（土）県医師会卒後教育精度管理報告会参加（青森市）
- 7月15日（火）日臨技 職域別職能推進WG（病棟・在宅医療/救命救急）（web）
- 7月26日（土）日臨技 第2回理事会（web）
- 7月30日（水）75JAMT 全国学会3役打合せ会議（web）
- 8月5日（火）75JAMT 幕張メッセとの会議（web）
- 8月13日（水）日臨技災害WG事前打合せ会議（web）
- 8月14日（木）令和7年度大規模地震時医療活動訓練：調整会議（web）
- 8月16日（土）～17日（日）日臨技より依頼 JIMTEF ファシリテーター（東京幡ヶ谷）
- 8月19日（水）臨地実習指導者ファシリテーター打合せ（web）
- 8月20日（水）日臨技災害WG会議（web）
- 8月21日（木）県医師会高校生心電図打合せ会議（web）

8月24日（日）日臨技臨地実習者講習会：ファシリテーター（web）
8月25日（月）75JAMT 全体会議（web）
8月29日（金）第72回日本臨床検査医学会（幕張メッセ）：75JAMT 打合せ2件（自費）
9月3日（水）日臨技 第2回ラダー勉強会
9月5日（金）～6日（土）令和7年度大規模地震時医療活動訓練（青森県庁）
9月18日（木）～21日（日）韓国釜山KAMT学会（75JAMT 広報活動・ポスター発表）
9月25日（木）日臨技 第3回生涯教育あり方委員会（web）
9月27日（土）日臨技 第3回理事会（東京大森）

【議題】

1. 青臨技 HP の氏名掲載について

吉田副会長より、現在は HP に部門長や精度管理委員の氏名が掲載されているが、他都道府県の技師会の HP 掲載状況も考慮して青臨技も氏名掲載は理事までにしてはどうかという提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

2. 野球肘検診の窓口について

奥沢会長より、野球肘検診の窓口を今後は公益部が担当していくこととしたいという提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

3. 青森ピンクリボンキャンペーンの協賛について

逆井事務局長より、例年協賛しており、今年も同様でよいかという提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 県学会について

来年度の青森県学会開催において、会場（アラスカ会館）は前日の17時から予約する。

2. 会誌について

今年は PDF で作成するため製本作業は無し。

3. 講師料の源泉徴収について

青臨技では講師の手間を省くために源泉徴収は1万円から対応する。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。